



## 2008NTTトライアスロンジャパンカップ第11戦銚子大会速報

# 女子、上田が「第二の故郷」千葉で完全優勝

### 男子は、細田雄一が全ヒートを制す

10月5日(日)、千葉県銚子市の銚子マリーナ特設コースで、2008NTTトライアスロンジャパンカップ第11戦・2008JTUSーパーズプリントトライアスロン選手権銚子大会が開催された。

JTUSーパーズプリント選手権の最終戦である本大会は、総合距離5.45km(スイム200m/バイク4km/ラン1.25km)を3ヒート行い、ヒートごとの順位をポイント化して、3レースの総合ポイントで総合順位が競われた。また、日本選手権の出場権を得られるかどうかの最後の戦いの場でもあることから、ベテランからジュニアまで幅広い層の選手が集結した。

午前12時05分からスタートした女子の第1ヒートは、北京オリンピックで17位になった日本ナショナルチームの上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)がトップでスイムをフィニッシュ。上田の後ろを今年度のジャパンカップですでに4勝をあげ、酒田、小名浜で



女子、第2ヒートのスイムスタート。  
11名の選手が一斉に走り出した

#### 上田 藍

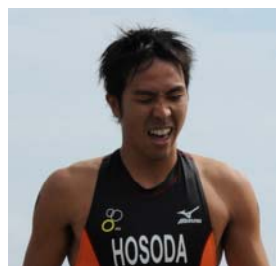
(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)



テクニックが必要なコースだったが、これまでのワールドカップで得た経験を生かすことができた。また、トランジションでの切り替えの早さが勝因の一つだったのではないと思う。佐藤選手の強い思いも伝わってきたが、自分もちろん負けるわけにはいけないので、勝てて良かった。

#### 細田 雄一

(稲毛インター)



久しぶりのレースだったので昨日は少し緊張していたのだが、優勝することができて本当にうれしかった。今年は3週間後の日本選手権が最後の大会となるが、長い目で見た目標としては、4年後のロンドンオリンピックがある。気持ちを切り替えて、次を目指していきたい。

JTU Official Sponsors & Official Partners



開催されたスーパースプリント選手権を制しているジュニアの佐藤優香(日本橋女学館高等学校)、菊池日出子(チームブレイブ)、太田麻衣子(千葉県連合)、土橋茜子(チームケンス練習生)が追い、その5名でバイクの第1集団を形成した。

上田は佐藤、菊池らと競り合いながらもラン終了まで先頭を走り、そのまま第1ヒートを制した。2位は佐藤、3位は菊池。そして結局、最後まで全ヒート通してこの順位が変わることはなかった。

第2、3ヒートでも上田は積極的にレースを進めた。佐藤や土橋らが一時追い抜く場面もあったが、フィニッシュ前で上田が逃げ切り、3ヒートとも制した。2位には佐藤、3位に菊池が入り、その結果が総合順位となった。上田は、「第二の故郷以上の場所」と語る千葉で、笑顔で優勝を遂げた。

男子の第1ヒートは、午前12時25分にスタート。まずは久しぶりのジャパンカップ出場となった細田

雄一(稲毛インター)がトップでスイムをあがり、そのすぐあとに付けた山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)、長谷川裕一(東京ヴェルディ)の3選手でバイクの第1集団をつくる。その後ろをスーパースプリント選手権酒田大会を制した河原勇人(トーションパートナーズ・チームケンス)や佐藤治伸(愛媛県協会)、今年度のジュニア選手権の覇者である椿浩平(チームブレイブ)らを含めた大集団が追う展開に。

その形はバイク終了まで変わらなかったが、ランに入って第2集団が猛追。トップ集団との距離を徐々に縮めていき、椿、河原ら数名が3選手に迫る。その結果、山本、長谷川は後続に捉えられてしまった。一方、細田雄一は最後まで先頭を守り抜き、第1ヒートを制した。2位には椿、3位に山本。さらに、続く第2ヒートも同順位で終了した。

第3ヒートも中盤から椿、細田貴茂(チームブレイブ)らジュニア選手らが追い上げたが、細田雄一はトップを譲らず、全ヒート制して優勝を遂げた。終盤で粘りを見せた山本が椿を抑えて2位に、椿は一步およばず3位に入った。総合順位は細田が優勝し、2位に椿、3位に山本。男女ともに、3ヒートとも制しての完全優勝となった。

レースの様子は「web JTU Magazine」フォトギャラリーでご覧になれます。



男子、第2ヒートのバイク。一時トップに立った山本(左)を細田雄一(右)が追う

#### 佐藤 優香

(日本橋女学館高等学校)



勝りたいと思っていたけど、上田選手は、やはり強かった。次は3週間後の日本選手権に向けて調整していきたい。昨年は10位でとても悔しい思いをしたので、それからずっと、「次はもっと上の順位、3位以内に入る」と決めて頑張ってきた。それが結果に出るよう、悔いがないように臨みたい。

#### 椿 浩平

(チームブレイブ)



結果として2位になることができたのは良かったが、スイムからトップを追っていきかけたので、展開としては満足していない部分がある。細田雄一選手ともランで戦いたいと思っていたので、それができなくて残念だった。日本選手権では表彰台にのぼることを目指して頑張りたいと思う。

JTU Official Sponsors & Official Partners

